

令和4年度学位記授与式学長告辞

九州工業大学 学長 二 三 谷 康 範



本日、ここに令和4年度の学位記授与式を挙行することができました。

自らの弛まぬ努力と研鑽の積み重ねによってこの栄えある門出を迎えられました皆さんに、まずもってお祝い申し上げます。また、この日まで卒業生・修了生を物心両面から支えてこられました保護者、御家族の皆様のお喜びはひとしおと拝察し、衷心よりお祝い申し上げます。日ごろから学生の皆さんを支えてこられたご家族、先輩、友人、仲間の力添えと恩師の導きに、本日は皆さんが改めて感謝する大切な機会でもあります。

3年間のコロナ禍で生活を過ごし、私たちは数々の対応力を試されてき

ました。人々が集まることができない制約の中での通信技術の利用による遠隔授業の展開、遠隔からの国際会議への出席や海外の研究者・友人との交流など、これまでは簡単には実現できないと思われていた困難を人々の突破力と行動力によって克服してきました。新型コロナウイルス感染症の第5類への移行によってこれまでの変則的な状態は一旦区切りを付けることになろうかと思えますが、ここに極めて大切な教訓が示されています。平時においては前例がなければなかなか前には進まなかったことがコロナ禍では実現されたということです。これは私たちに能力がないのではなく、困難を突破するための思考と行動力がうまく噛み合っていなかっただけであったということを示しています。

さて、私たちの生活の向上を支えてきた大量生産・大量消費の時代は過ぎ去り、SDGsも意識しつつ、少

量多品種で個々人の目的に沿って最適化された製品が求められるようになってきていると思います。その実現には確かな基盤のハードウェアの上に柔軟で高度化可能なソフトウェアが連携して、きめ細やかで多様化した機能を実装することが重要であり、通信技術を組み合わせた繋がる環境が重要な役割を演じます。大量消費時代の製品は出荷された時が最高の価値を持ち、それが徐々に古くなり次第に価値を失う減価償却という概念が一般的でした。これに対して例えばスマートフォンを見ると、ハードウェアと通信技術が進化したことよって、時代の変化に応じて絶えずソフトウェアがバージョンアップされて機能を増す仕組みが出来上がっています。経験や知識を蓄積して価値を増していくという意味でこの状態は増価蓄積と呼ばれています。製品として世の中に登場してきますます価値を増していくのです。

さて、皆さんは本学で一定の期間をかけて学んできて今日の日を迎えました。この時点で改めて考えてほしいことは、卒業とはそれが終着点ではなく、これからの長い人生の始

まりであるということです。皆さんは決して減価償却してはいけません。この学業生活において皆さんは増価蓄積できる今の状態を準備できています。したがって、これから、種々学び続けて、自身を常にバージョンアップして価値を蓄積することを継続してください。これによってこの先、コロナ禍のような予期せぬ困難が起こったとしても、経験と知恵とネットワークを活かして未来を切り開くことができます。もしも自身の力に不安や限界を感じた時はどうぞまた大学を頼ってください。産学連携、共同研究、大学院進学、など色々な道があります。大学は世界の最新技術を常に探査し、その持てる力が古びないように努力をしています。こうして皆さんがこれからも活躍を続けられるように大学は寄り添える存在であるのです。

世界を見渡せば、残念なことに常にどこかで紛争が起っています。国と国の難しい関係が生じても皆さんが本学で過ごした中で関わった世界中の個々の人々を思い出して、個人的な絆を大切にこれからの生活を送ってください。こうした努力が世

界を平穏な状態に戻す力強い復元力として作用することは間違いありません。加えて、皆さんが培った技術力や人間力を活用して社会変革を起こすように、蓄積された力をあらゆる場面で遺憾なく発揮してください。これからは環境問題、資源・エネルギー問題、国際政治情勢など数々の難しい制約条件が課された中での経済活動が強いられます。大きな困難を伴いますが、一方で、ピンチをチャンスに変えられる柔軟な発想と行動が勝負の分かれ目になるのです。本学で培った確かな技術力とグローバルコンピテンシーに裏打ちされた皆さんの若い力と行動力・突破力が遺憾無く発揮され、これからの日本社会を飛躍的に発展させる原動力になることを楽しみにしております。

最後になりますが、皆さんが、九州工業大学における多くの良き出会いを財産として、この変化に富んだ時代の中で、生活を楽しみ、多くのことを感じ、考え、学び続け、活躍されますことを祈念し、皆さんの栄えある門出を心から祝福申し上げます。本日、誠にありがとうございました。